

## 被災学生への経済支援について（経過報告）

経済援助給付奨学金（自然災害による被災者対象）の給付

中央大学は、東日本大震災発生以来、被災した学生の皆さまに経済支援を行っています。2011年度標記奨学金は590名（金額4億1,946万円）が手続きを行いました。2012年度についても同様の奨学金による経済支援を行うことが決定し、所管している厚生課では入学手続き時に新生へ案内し、在學生には対象者のみ2011年12月に案内文を本人と父母に郵送しました。概

要は下記の通りです。

奨学金申請者の状況を見ると、家計が困窮し未だに家屋の修復に至っていない、今もなお失業中である、職を失っていないが大幅な収入減が継続している、原発事故が直接起因し農業収入等を喪失した、最低限必要と思われる家財道具の購入や転居費用のため仕送りができない等様々な困難な状況が今でも続いていることを確認しました。

■ 申請資格 本学学生で、2012年度に下記Ⅰ～Ⅲのいずれかの申請区分の要件をすべて満たす方です。

申請区分	要件
Ⅰ	1. 岩手県・宮城県・福島県・青森県・茨城県・栃木県・千葉県・長野県・新潟県で東日本大震災により「災害救助法」の適用を受けた地域に主たる家計支持者である父母又は学費負担者が居住していること 2. 居住している（していた）家屋の被災状況として「家屋全壊」・「家屋全焼」・「家屋全流出」・「家屋半壊」・「家屋半焼」の被害を受けた方 ※「災害救助法」の適用を受けた地域外であっても、東日本大震災に起因して公的機関発行の「 <sup>リ</sup> 被災証明書」が提出できる場合は対象となります。
Ⅱ	東日本大震災に直接起因して、主たる家計支持者である父母又は学費負担者が死亡もしくは行方不明であること
Ⅲ	東日本大震災に直接起因して、主たる家計支持者である父母又は学費負担者が失職・解雇・収入喪失の状況であること（収入減少は対象外）

■ 給付金額 申請区分ごとに下記の通り給付金額が決まっています。

申請区分	給付金額
Ⅰ・Ⅱ	2012年度学費全額（入学金・授業料・施設設備費・実験実習料） ※ 諸会費については免除
Ⅲ	2012年度入学金および学費第1期分（授業料1/2・施設設備費・実験実習料） ※ 諸会費については免除 ※ 在学後、学費第2期分・3期分の納入が必要

※ 2012年度新生は44名（金額5,061万円）、在學生は124名（金額1億1,192万円）が手続きを行いました。

※ 東日本大震災による被災学生を対象とした中央大学貸与奨学金について、2011年度在學生は28名（金額1,940万円）が手続きを行いました。2012年度は、経済援助給付奨学金（自然災害による被災者対象）を受けている方に限り本貸与奨学金の申請を受け付けています。



## 経済援助給付奨学金（自然災害による被災者対象）へのご支援のお願い

上記奨学金の財源の一部として、ご寄付を受け付けております。寄付金振込用紙のご請求、お問い合わせ等は募金推進事務局にて承ります。皆さまのご支援・ご協力を心よりお願いいたします。

※ ご寄付は寄付金控除（税額控除か所得控除を選択）の対象となります。

■ 振込用紙の通信欄に「東日本大震災被災学生奨学金」とご記入ください。

<ご寄付についてのお問い合わせ先>

中央大学募金推進事務局

〒192-0393 東京都八王子市東中野 742-1 TEL：042-674-2442 FAX：042-674-2435

E-mail：bokin@tamajs.chuo-u.ac.jp

※ 創立百二十五周年記念事業募金推進本部事務局は平成24年7月1日をもって募金推進事務局となりました。

## 大地震初期対応カード配布について 防災・減災に関する大学の取り組みについて

本学では、東日本大震災の経験を踏まえ、学生・教職員をはじめキャンパス内に滞在しているすべての方々の安全確保を図るべく、大地震対策を進めています。

その一環として、4月、大地震発生時に役立つ初動対応要領を記載したポケットサイズのマニュアル「大地震初期対応カード(学部・大学院生用)」を配布しました。

カードは、地震発生直後や揺れがおさまってからからの行動、緊急避難アイテムなど日常の備え、大学や家族への連絡方法などがコンパクトにまとめられているほか、各キャンパスから20km圏内を示す地図な

ど、震災時に役立つ情報を掲載しています。

教職員には、「大地震初期対応マニュアル(多摩キャンパス教職員用)」を配布しましたが、引き続きマニュアルの整備、防災訓練等の計画・実施など、防災・減災に関するあらゆる施策検討・対応実施を推進していくこととなりました。

マニュアルやカード等を活用し、学生の安全確保を第一としつつ、キャンパス内に滞在するすべての方々の安全を確保するためにも、大地震発生時の初動について理解いただき、防災・減災に取り組んで参ります。



※本カードは、大学公式Webサイトより印刷できます： トップページ → 学部生・大学院生の方へ → 〈右バナー〉大地震初期対応カード

## 中大生のボランティア活動報告

2012年5月までに計15回、延べ407名の学生をボランティア派遣 — 学生部

学生部は、2011年3月11日の東日本大震災をうけ、2012年5月までに計15回、延べ407名の学生を宮城県気仙沼市、岩手県陸前高田市を中心にボランティアとして派遣しました。震災から1年が経過し、現地でのニーズが変わりつつありますが、学生は自分たちができることを懸命に取り組んでいます。

また、4月27日には、春季休業期間中に行ったボランティア活動の報告会およびシンポジウムを実施しました。

春季ボランティアでは清掃作業や植樹、仮設住宅支援、学習支援等、多岐にわたる活動を行い、報告会を通して学生間で情報の共有をし、今後の活動支援のあり方を検討しました。報告会後には特定非営利活動法人阪神高齢者・障害支援ネットワーク理事長の黒田裕子氏による講演会を行い、「ボランティアとはなにか」というテーマで、体験談をもとにお話しいただきました。シンポジウムでは、黒田氏、三陸新報社編集

局長の小野寺英彦氏、陸前高田市要谷地区集団移転協議会事務局長の武蔵和敏氏に「被災時の状況と現在までのあゆみ」「学生たちが現地で何ができて、何かできなかったか」「今後、学生・大学に何を期待し、どのような復興・再生を成し遂げるべきか」のテーマで討論していただき、大変充実したシンポジウムとなりました。

今後も、学生部では継続的に被災地支援活動を行っていきます。



写真左：シンポジウムの様子(講師は左より順に、黒田氏、小野寺氏、武蔵氏)



写真中・右：ボランティア活動の様子(個人宅の清掃活動・児童の学習支援)

## 受験者数が飛躍的な伸び —2012年度入試結果

中央大学横浜山手中学校・高等学校

### ■ 新校地、昨年11月に着工

2013年4月に予定している横浜市都筑区への校地校舎移転計画に基づき、2012年12月の竣工を目指して、本校地となる牛久保校地の校舎建築、グラウンドとなる大柵校地の整備を行っています。

### ■ 2012年度入試結果

中学校では、男子生徒募集の初年度ということもあり、積極的な募集活動を行ってきました。その結果、本校のこれまでの取り組みに対する一定の評価に加え、男女共学化や校地校舎移転計画などへの期待から、受験者数は昨年度比259%、また、受験生は男子が女子を上回り、入学者比率では男子55%、女子45%となりました。

本校は関東でも群を抜く大幅な受験生増となり、入試難易度では事前の進学塾等の予想を超える結果となっています。

高等学校では入試改革をおこない、バランスのとれた学力を持つ生徒の獲得を目指した、他私学には稀有な5教科型入試の導入等、入試方式を変更しました。当初はその影響による志願者の減少も想定しましたが、予測よりも増加傾向となりました。首都圏以外からも入学者があったことは、附属校化がもたらした結果ともいえます。

4月の神奈川私立中学相談会においても、本校相談ブースには多くの保護者が列をなし、本校への期待がうかがえました。これに応えるべく、一層の教育力、教育環境向上に力を入れていきます。



牛久保新校地完成予想図（予想図と実際とは異なる可能性があります）